

佐賀藩

長崎警備の

はじまり展



「あしやう」

寛永十九年（一六四二）、三代将軍徳川家光から長崎警備の台命が初代佐賀藩主鍋島勝茂に下って今年で三七〇年になります。江戸時代にヨーロッパ船が来航する唯一の港である長崎港の警備は、鎖国体制を維持する上での重要任務であり、二代藩主鍋島光茂は「異国に対し日本の恥をかかぬ所が肝要」と警備の心構えを述べています。

勝茂・光茂以後も、歴代藩主の「御代始条目」で筆頭に掲げられるなど、長崎警備は佐賀藩の最重要任務として継続され、幕末の動乱期に至ります。世界遺産登録を目指した調査が進行中の築地反射炉は、長崎警備を充実させるため十代藩主鍋島直正が建設をすすめた製砲施設です。

本展では、天草・島原の乱で藩主勝茂が着用した甲冑、藩主の年譜類、長崎での警備や台場を描いた絵図などにより、長崎警備のはじまりに焦点をあて、佐賀藩にとっての意義を探ります。

平成二十四年五月二十八日

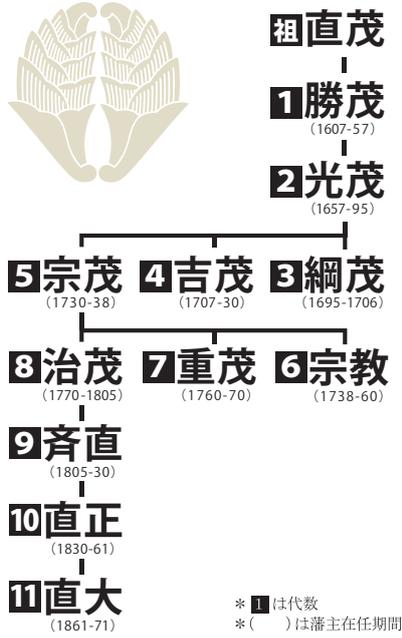
財団法人 鍋島報效会



目次

ごあいさつ	1
目次・凡例	2
図版・解説	3
◆ 天草・島原の乱と長崎警備のはじまり	3
◆ 佐賀藩 長崎警備の展開	23
◆ 長崎と唐物	42
関係略年表	46
出品リスト	47

凡例



- 一、この図録は、財団法人鍋島報効会が主催し、平成二十四年五月二十八日(月)から八月四日(土)まで徳古館において開催する第五十七回企画展「佐賀藩 長崎警備のはじまり」展の解説付き総目録である。
- 一、資料の順序は各テーマに従って配列し、陳列の順序とは必ずしも一致しない。
- 一、資料解説の表記は、出品番号、名称、員数、時代・年代、銘文等、法量(単位はセンチメートル)、品質・形状、所有者、指定名称、所蔵者、解説の順に記した。但し、一部の文書資料等は、名称欄に記事内容等を記載した。
- 一、所蔵者表記のないものは、いずれも財団法人鍋島報効会所蔵。但し、佐賀県立図書館に寄託されている鍋島家文庫資料については、その旨と請求番号を付した。
- 一、解説文中の史料引用は、カタカナや漢字を平仮名にするなど適宜表記を改め、読み下し文にして送り仮名を補ったところがある。
- 一、編集・執筆は財団法人鍋島報効会(主任学芸員 藤口悦子、学芸員 野口朋子、学芸員 富田紘次)が行った。
- 一、図版の写真撮影は、久我秀樹(久我写真事務所)、株式会社とっぺん、富田、伊藤 優(財団法人鍋島報効会 資料調査員)が行った。ただし、No. 1・6・13・15は各所蔵者より画像の提供を受けた。
- 一、No. 6「嶋原大絵図」、No. 11「正保四年長崎警備の図」のトレース図、および長崎警備地図(32〜33ページ)の作成は富田が行った。



4 青漆塗萌黄糸威二枚胴具足 一領

江戸時代前期（十七世紀前半）
 胴高四五・〇cm 鉄製 漆塗
 初代藩主 鍋島勝茂所用 佐賀県指定重要文化財

佐賀藩歴代藩主所用のもので唯一現存する具足。胴裏面には、本品の由来を記した「鑑記」が、初代藩主鍋島勝茂の末子で神代家（佐賀藩親類）を継いだ直長（一六二八〜九三）により寛永十九年（一六四二）に記されている。それによれば「寛永丁丑（十四年）、耶蘇宗結党、有馬の古墨（原城跡）にて姦兇を作し猛威を振るう」。すなわち鍋島勝茂が天草・島原の乱の「原城の戦い」で着用したことがわかる。

乱では各藩の武将が奇抜な具足や変わり兜を着用したといわれる。しかし本品は奇抜さよりも機能を優先したと思われる実戦的な具足である。萌黄色の威糸と深緑を呈する青漆の色が調和したその風格は、延べ十二万人を擁した幕府軍のうち、最大の三万五〇〇〇人を送り込んだ佐賀藩勢の総指揮官着用にふさわしい。

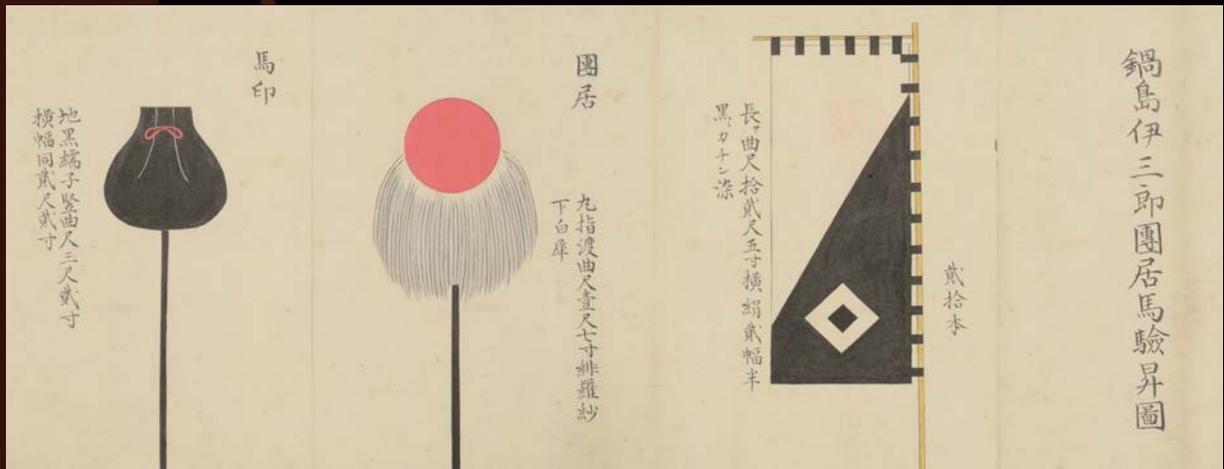


「鑑記」寛永19年(1642) 鍋島直長(勝茂の末子)誌

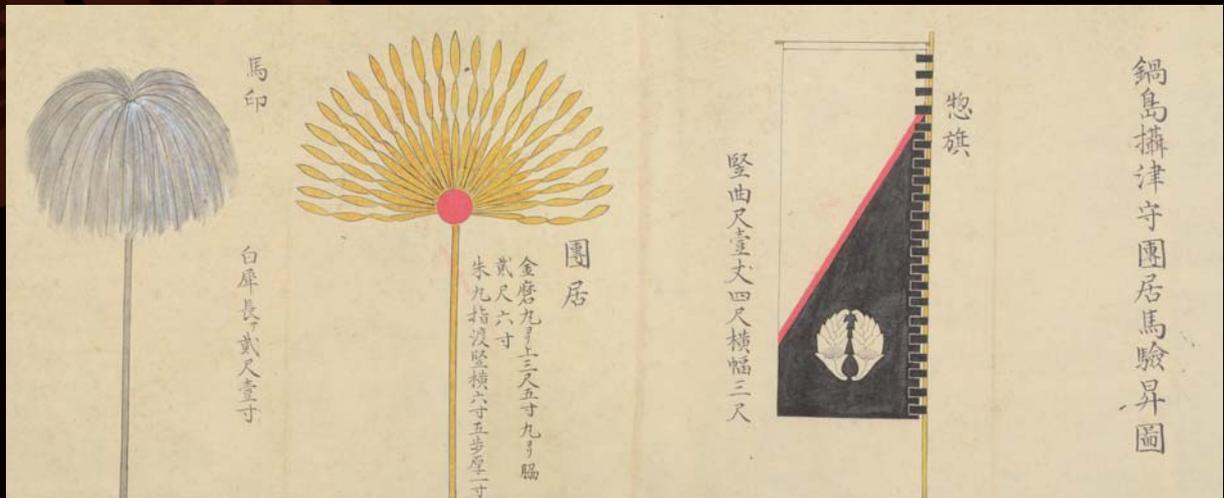
7 諸家團居馬驗昇図 一卷

江戸時代(十八〜十九世紀)
全長二〇八五・〇cm 縦二七・四cm
紙本着色墨書 卷子装

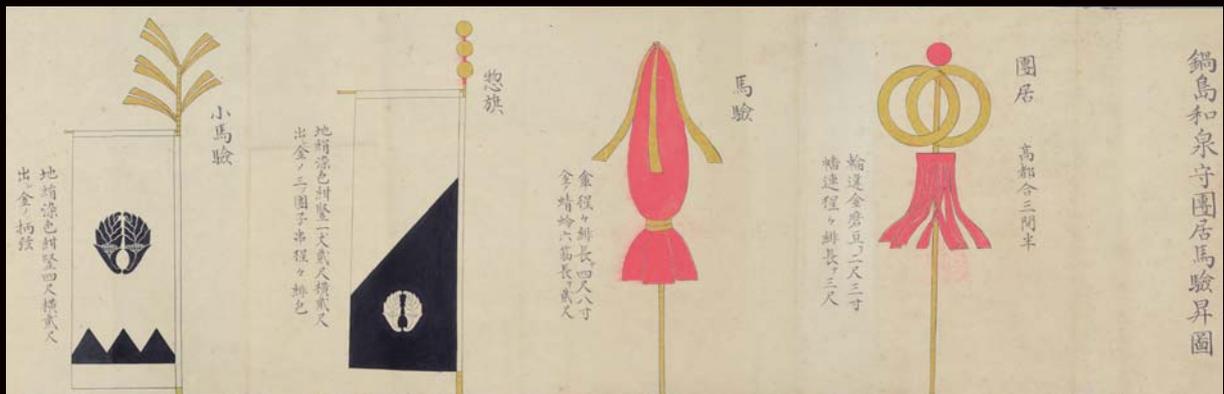
小城鍋島家・蓮池鍋島家・鹿島鍋島家の三家をはじめとする佐賀藩重臣の二十七家について、各家の惣旗・團居・馬印など計七十一図が彩色で描かれており、その意匠の奇抜さと個性は見るものを飽きさせない。中には、多久家(親類同格)や横岳鍋島家(家老)など、天草・島原の乱で各家が用いた差物の記録と合致するものがあり、乱での佐賀藩勢の陣場の賑々しさをほうふつとさせる。



小城鍋島家(三家)



蓮池鍋島家(三家)



鹿島鍋島家(三家)



27 長崎表調練図

一舗

江戸時代後期(十九世紀)
縦一六六・〇cm 横二八三・七cm
紙本着色

画面上端の西泊・戸町両番所から、下端の高島までの範囲を描いており、佐賀・福岡両藩の合同調練が行われている。西泊・戸町両番所ならびに内目の一番〜三番御台場(一番・太田尾、二番・女神、三番・神崎)には福岡藩、外目の四番〜七番御台場(四番・白崎、五番・高銚、六番・長刀岩、七番・陰ノ尾)には佐賀藩が配置につき、三番御台場・神崎付近で長崎奉行が見守っている。二番御台場・女神と三番御台場・神崎の海峡には、「御當番方張切」として、当番藩の福岡藩による舟橋がつくられている。

承応二年(一六五三)に築造が始まったこれら七カ所台場には、文化五年(一八〇八)におきたフェートン号事件を受けて増築された「新規御台場」も見える。またこれらのほかに佐賀藩独自で設置した「御自分台場」が上ノ島(神ノ島)、小鹿倉(小ヶ倉)、中久保などにあるが、十代藩主鍋島直正の嘉永三年(一八五〇)から佐賀藩が築造した台場や、神ノ島と四郎島をつなぐ築切も見えないことから、十九世紀前半の状況を描いたものと考えられる。



白崎御台場周辺



29

茶地結立涌花鳥模様欄錦

一卷

中国・明時代（一六〇一〜一七世紀）
全長九九・四cm 幅五五・三cm
茶繻子地 金欄
初代藩主鍋島勝茂 所用（高伝寺返納品）



繻子織に金糸で柄を織りだす珍しい技法により、立涌内に双頭の鷲や菊花、向かい合う獅子など、西洋と東洋のモチーフが混在してあらわされる。当時、マカオでポルトガル製品の写しを中国人に織らせることがあったという。中国製の西洋風生地が、輸入された反物の状態でのこる稀有な作例。

30

卍格子文堆朱硯箱

一合

中国・清時代（一七〇一〜一八世紀）
高さ五・七cm 縦二四・五cm 横二一・三cm
木製 漆塗
初代藩主鍋島勝茂 所用カ



被蓋造の硯箱で、内部に筆架と硯をおさめる。縁を朱漆塗とし、堆朱の卍格子模様を箱全体に充填する。堆朱は朱漆を何層にも塗り重ねて文様を彫り表したもので、中国の伝統的な漆工技法のひとつ。日本へは中世より請求され、唐物漆器として珍重された。



出品リスト

No.	資料名	員数	時代・年代	法量	所蔵者等 (鍋一三・六などは鍋島家文庫の請求記号を示す)
-----	-----	----	-------	----	------------------------------

1	第一章 ◆ 天草・島原の乱と長崎警備のはじまり 天草四郎陣中旗 (*バネル展示)	一旗	寛永一四年(一六三七)頃カ	縦一〇八・六cm 横一〇八・六cm	天草市立天草キリシタン館所蔵 重要文化財
2	勝茂公譜考補 卷十上	一冊	天保一四年(一八四三)成立	縦二六・五cm 横一八・七cm	財団法人鍋島報效会所蔵(鍋一三・一六)
3	元茂公御年譜 卷七	一冊	寛政一二年(一八〇〇)成立	縦二六・五cm 横一八・五cm	財団法人鍋島報效会所蔵(鍋一三・一〇)
4	青漆塗萌黄糸威二枚胴具足	一領	江戸時代初期(一七世紀)	胴高四五・〇cm	財団法人鍋島報效会所蔵 初代藩主鍋島勝茂 所用 佐賀県指定重要文化財
5	鉄打出金箔押唐冠形兜	一頭	江戸時代初期(一七世紀)	総高五二・〇cm	財団法人鍋島報效会所蔵
6	嶋原大絵図	一鋪	享保九年(一七二四)	縦一七三・〇cm 横二〇〇・〇cm	佐賀県立佐賀城本丸歴史館所蔵
7	諸家同居馬駿昇図	一卷	江戸時代(一八〇一〜一九世紀)	全長二〇八五・〇cm 縦二七・四cm	財団法人鍋島報效会所蔵
8	元茂公御年譜 卷七	一冊	寛政一二年(一八〇〇)成立	縦二七・五cm 横二〇・四cm	財団法人鍋島報效会所蔵(鍋一三・一〇〇)
9	元茂公御年譜 卷八	一冊	寛政一二年(一八〇〇)成立	縦二六・五cm 横一八・六cm	財団法人鍋島報效会所蔵(鍋一三・一〇一)
10	勝茂公譜考補 卷十上	一冊	天保一四年(一八四三)成立	縦二五・五cm 横一八・〇cm	財団法人鍋島報效会所蔵(鍋一三・一五五)
11	正保四年長崎警備の図	一幅	江戸時代後期カ	縦一五二・〇cm 横二〇・六cm	財団法人鍋島報效会所蔵
12	元茂公御年譜 卷十	一冊	寛政一二年(一八〇〇)成立	縦二六・五cm 横一八・四cm	財団法人鍋島報效会所蔵(鍋一三・一〇二)
第二章 ◆ 佐賀藩 長崎警備の展開					
13	鍋島直弘口上寛書	一通	万治三年(一六六〇)カ	縦二九・〇cm 横二一五・八cm	佐賀県立図書館所蔵 白石鍋島家文書第一九号(五九一・二五三六)
14	寛元事記 卷二	一冊	一八世紀前半成立 天明三年(一七八三)書写	縦二七・〇cm 横一九・三cm	財団法人鍋島報效会所蔵(鍋一三・一一)
15	鍋島綱茂遺書写	一通	宝永三年(一七〇六)	縦三二・六cm 横一〇五・四cm	佐賀県立図書館所蔵 白石鍋島家文書第三二号(五九一・二五四九)
16	寛元事記 卷二	一冊	一八世紀前半成立	縦二六・五cm 横一八・五cm	財団法人鍋島報效会所蔵(鍋一三・一七九)
17	手頭	一通	寛文一三年(一六七三)	縦三七・〇cm 横二六・二・五cm	財団法人鍋島報效会所蔵(神代家文書No.一〇)
18	勝茂公譜考補 卷十中	一冊	天保一四年(一八四三)成立	縦二六・二cm 横一八・七cm	財団法人鍋島報效会所蔵(鍋一三・一六二)
19	吉茂公譜 卷六	一冊	文政一二年(一八一九)成立	縦二六・〇cm 横一八・八cm	財団法人鍋島報效会所蔵(鍋一三・一八)
20	黒漆塗杏葉紋散唐草時絵茶弁当	一荷	江戸時代後期(一九世紀)	高さ四三・五cm 幅四六cm	財団法人鍋島報效会所蔵
21	御番方大概	一冊	天保一一年(一八四〇)書写	縦二六・二cm 横一八・四cm	財団法人鍋島報效会所蔵(鍋一三・一五九)
22	戸町御番所図	一鋪	江戸時代後期(一九世紀)	縦二七・一cm 横三九・〇cm	財団法人鍋島報效会所蔵
23	太田尾御台場図	一鋪	江戸時代後期(一九世紀)	縦二七・一cm 横三九・〇cm	財団法人鍋島報效会所蔵
24	長刀岩御台場図	一鋪	江戸時代後期(一九世紀)	縦二七・一cm 横三九・一cm	財団法人鍋島報效会所蔵
25	長崎警備図屏風(御非番之年)	一隻	宝永二年(一七〇五)	縦一六三・九cm 横二二六・五cm	財団法人鍋島報效会所蔵
26	長崎港鳥瞰図	一幅	文化年間頃(一八世紀前半)	縦一〇八cm 横三三・一cm	財団法人鍋島報效会所蔵
27	長崎表調練図	一鋪	江戸時代後期(一八世紀)	縦一六六cm 横二八三・七cm	財団法人鍋島報效会所蔵
第三章 ◆ 長崎と唐物					
28	色絵山水竹鳥文輪花大皿	一枚	中国・明時代(一六二〇〜四〇年代)	高さ五・一cm 口径三四・一cm 底径二二・五cm	財団法人鍋島報效会所蔵 初代藩主鍋島勝茂 所用 中国・景德鎮窯
29	茶地結立浦花鳥様欄錦	一卷	中国・明時代(一六〇〜一七世紀)	全長九九・四cm 幅五五・三cm	佐賀県指定重要文化財
30	卍格子文堆朱硯箱	一合	中国・清時代(一七世紀)	高さ五・七cm 縦二四・五cm 横二一・三cm	財団法人鍋島報效会所蔵 初代藩主鍋島勝茂 所用
31	阿蘭陀焼小壺	一合	一七世紀半ば	高さ六・五cm 口径五・二cm 底径四・五cm	財団法人鍋島報效会所蔵 初代藩主鍋島勝茂 所用 オランダ製
32	唐物三角香合	一合	中国・清時代(一八世紀カ)	高さ七・八cm 縦六・七cm 横六・七cm	財団法人鍋島報效会所蔵
33	染付唐人文筆洗	一基	中国・明時代(万暦年間)	高さ一三・五cm 縦五・五cm 横一〇cm	財団法人鍋島報效会所蔵 中国・景德鎮窯

謝辞

本展の開催にあたり貴重なご所蔵品をご出品頂き、またご協力・ご助言頂きました左記の関係機関、関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。
(敬称略・50音順)

天草市立天草キリシタン館

佐賀県立佐賀城本丸歴史館

佐賀県立図書館

石橋 道秀

江口 智徳

寺下 高志

藤生 京子

佐賀藩

長崎警備のはじまり

編集・発行

公益財団法人鍋島報効会

〒八四〇・〇八三一

佐賀市松原二丁目五・二二

TEL 〇九五二・二三・四二〇〇

URL <http://www.nabeshima.or.jp>

発行年月日

平成二十四年五月二十八日(第一刷)

印刷

平成二十七年三月二十一日(第二刷)

印刷

㈱佐賀印刷社

本書の全部または一部を無断にて転載・複製することを禁じます。

© 二〇二五 公益財団法人鍋島報効会

鍋島報効会は、本展開催時は財団法人でしたが、平成二十五年四月一日に公益財団法人へ移行しました。



徴古館

The Museum CHOKOKAN
NABESHIMA